

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一緒に児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語、算数、理科、児童質問紙)

中学校 第3学年(国語、数学、理科、生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	26人
② 算数	26人
③ 理科	26人

5 留意事項

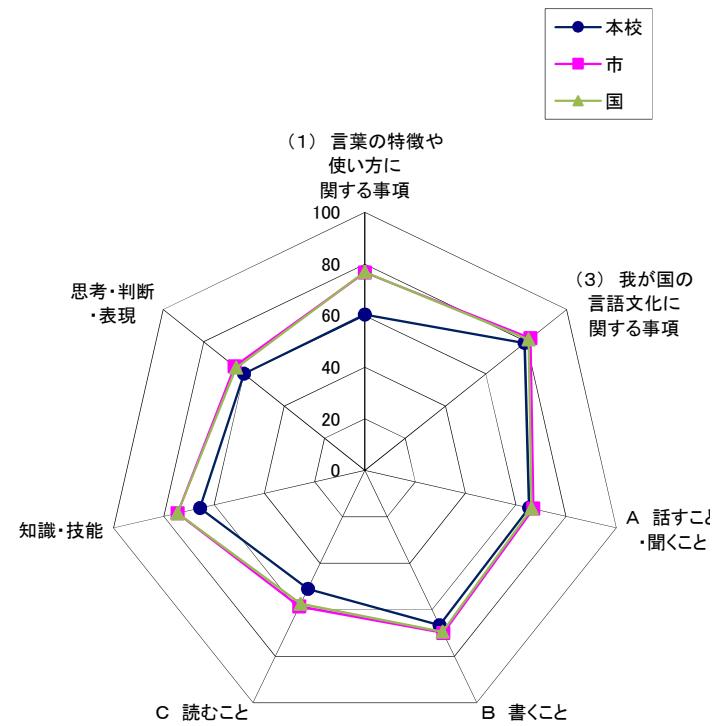
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	60.4	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	62.5	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.2	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	65.3	67.0	66.3
	B 書くこと	66.7	70.0	69.5
	C 読むこと	51.0	58.6	57.5
観点	知識・技能	65.6	74.5	74.5
	思考・判断・表現	60.0	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

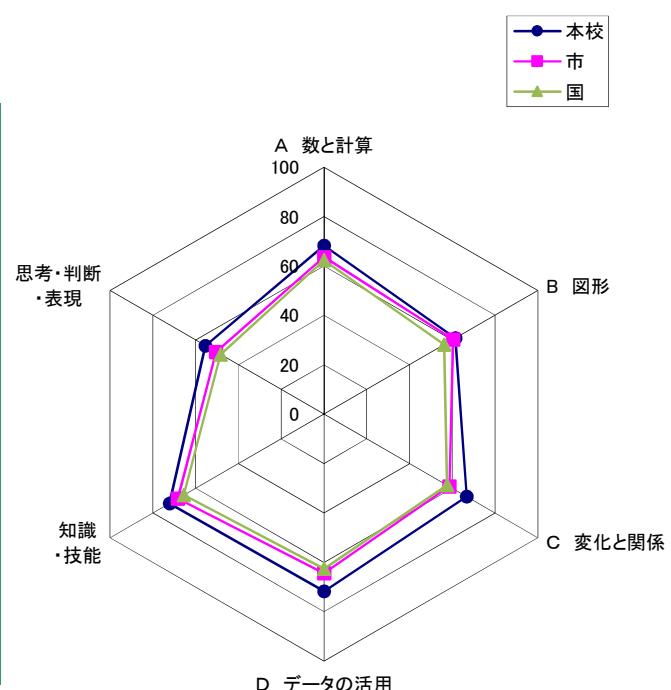
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点	
		○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	●漢字を文の中で正しく使う問題では、正答率が全国平均より16.5ポイント下回った。	・朝の学習の時間などを活用し、学習支援担当教員と連携しながら漢字練習やミニテストを行うことで、漢字の習熟を図る。	・書き取りの問題で、無解答の児童は少なかった。AIドリル等を活用し、既習の漢字を正しく書けているか自分で確認できるよう指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○情報の扱い方に関する問題では、正答率が全国平均を0.6ポイント下回った。	・授業等で様々な思考ツールを活用し、考えを図示することのよさに触れたり、その仕方を学んだりすることで、自分の考えをノートに図示する機会を増やす。	
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●世代による言葉の違いに関する文章を読み、その内容を正しくまとめた文章を選ぶ問題では、正答率が全国平均を2.0ポイント下回った。	・学校図書やインターネットを活用し、時間の経過により変化してきた言葉に触れる機会を意識的に設定する。	
A 話すこと・聞くこと	○話すこと、聞くことに関する領域では、正答率が全国平均を1.0ポイント上回った。 ○話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめる問題では、正答率が全国平均を13.8ポイント上回った。	・ペア学習やグループ学習等、最適な学習形態を工夫し、練り合いの場を設定することで、それぞれの立場で考え方伝え合うなど言語活動の充実を図っていく。また、相手や目的、意図に合わせて伝え方を工夫しようとする力をつけていきたい。	
B 書くこと	●書くことに関する領域では、正答率が全国平均を2.8ポイント下回った。	・書いた文章を自身で読み返したり、教師や友達と確認し合ったり場面を設定することで、文の構成について着目させ、何について書いているかをはっきりさせるよう指導していく。 ・授業の振り返り等を活用し、「学んだこと」「自分の生活につなげて」「友達の意見を聞いて」等、条件に当てはめて書く機会を設定する。	
C 読むこと	●読むことに関する領域では、正答率が全国平均を6.5ポイント下回った。 ●事実と感想や意見などを叙述を基に読み取り、要旨を把握する問題では、正答率が全国平均を13.8ポイント下回った。	・朝の全校一斉読書や読書週間の実施、及び家庭での読書の奨励など、読書活動をさらに推進していく。 ・本文に印を付けて書いてあることを確かめたり、登場人物になりきって自分の考え方を表現する機会を設定するすることで、文章から分かることと、自分の考え方を分けて整理できるよう指導していく。	

宇都宮市立中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.2	63.6	62.3
	B 図形	61.5	60.4	56.2
	C 測定	62.5	56.9	54.8
	C 変化と関係	66.7	58.6	57.5
	D データの活用	71.7	64.4	62.6
観点	知識・技能	72.2	68.3	65.5
	思考・判断・表現	55.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

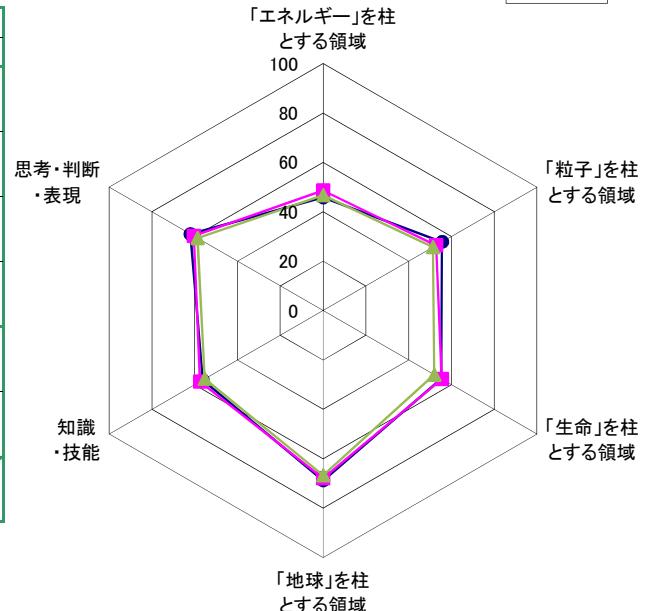
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では、国の平均正答率より8.8ポイント上回った。 ●数直線上で1のメモリに着目し、分数を単位分数のいくつ分としてとらえることができるかどうかを問われる問題では、国の平均正答率より1.7ポイント下回っている。	・今後も継続して普段の授業の中で、自分の考えを式や言葉で表現する時間を設けるようにする。 ・分数の基本的な概念が身に付くよう、繰り返し練習問題に取り組み、習熟を図るようにする。
B 図形	●五角形の面積を求めるために2つの図形に分割し、面積の求め方を書く問題では、国の平均正答率を0.5ポイント上回ったが、県を下回り、本校の正答率も37.5%だった。	・多角形の面積の求め方については、効率の良い分割の仕方を考えさせ、実物を提示して視覚的に理解できるような授業展開を工夫する。 ・今後も継続して自力解決の時間を確保し、自分の考えを式や言葉で表現できるようにする。また、ペア学習やグループ学習など授業形態を工夫することで、友達のよりよい考えを取り入れながら、さらなる表現力向上を推進する。
C 測定	○測定の問題では、国の平均正答率より2.5～13.7ポイント上回っている。	・日常生活の中での実体験を積み重ねて学べるような活動を工夫する。
D 変化と関係	○「10%増量」の意味を解釈し、増量前の何倍かを選ぶ問題では、国の平均正答率より9.1ポイント上回っている。 ●2つの数量の関係に着目し、必要な事柄を判断し、求め方を書く問題については、国の平均正答率より2.3ポイント上回ったものの、50%の正答率だった。	・割合の考え方の定着がより図れるよう、基礎的な問題に取り組ませ、習熟を図る。 ・スマールステップの段階的指導を行い、記述問題に慣れるようにする。また、自力解決や友達との学び合いの時間を確保して、自分の言葉で説明する力や表現力の向上に努める。
E データの活用	○二次元の表から、条件に合った項目を選ぶ問題では、県の平均正答率より3.4ポイント上回っている。	・今後も、表やグラフから読み取ったことを多面的に考察したり、数理的な処理の良さに気付かせたりして、生活に活用していく力を育成する。

宇都宮市立中央小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	45.8	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	55.6	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	55.2	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	68.8	67.9	66.7
観点	知識・技能	56.3	57.5	55.3
	思考・判断・表現	62.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○「ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻き数の変え方を書く問題では、正答率が全国平均を5.3ポイントで上回った。</p> <p>●領域全体でみると、平均正答率は、国の正答率から0.9ポイント下回った。特に、乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ問題では、全国より13.4ポイント下回った。</p>	・乾電池の数やつなぎ方と電流の大きさとの関係については、実験を通して、実際に操作しながら確認した内容だったが、知識として定着していなかったようである。実験で得られた結果を、知識として確実に定着させられるよう取り組んでいきたい。
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、国の正答率より4.2ポイント上回った。特に『海にある氷がとけることについて、氷が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ問題では、全国平均を+19.4ポイントと大きく上回った。</p>	・『学習したことともとに考えたこと』を選択肢から選ぶ問題の正答率が高かったことは、本校が学校課題研究で取り組んでいる「対話的な学び合い」の姿勢が身についてきている成果の一つと推察される。今後は、分かったことからさらに発展的な課題を見出すことができるようにしていきたい。
「生命」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、国の正答率より3.2ポイント上回った。特に、ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ問題では、国の正答率を13.0ポイント上回った。</p>	・本校が学校課題の研究で取り組んでいる『「話す」「聞く」言語活動の充実』から得られるであろう『多角的な視点から物事を考えられる』児童の育成の成果から、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想できた児童が多かったと推察される。今後も、多角的な視点から実験結果等を考察し、問題解決できるように取り組んでいきたい。
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は、国の正答率から2.1ポイント上回った。特に、「結果」や「問題に対するまとめ」から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を想定し、予想した理由とともに選ぶ問題では、国の正答率を13.9ポイント上回った。</p> <p>●赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く問題では、国の正答率を18.8ポイント下回った。</p>	・「結果」や「問題に対するまとめ」を基に他の条件での結果を予想する問題で正答できる児童が多かったことは、本校が重点をおいている「学び合い」の活動により、友達の考え方を「聞き」自分の考えを「話す」ことを重ねる中で、得られた条件から予想したり新たな問題提起をしたりする力がついてきた結果と推察される。一方で、『結果を用いて書く』問題の正答率が低く、「書いて」表現する力を伸ばしていくことが今後の課題である。今後は、観察などで得た結果から分析、解釈したことを、自分の考えとしてしっかりと表現できるようにしていきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「朝食を毎日食べていますか」などの生活についての肯定回答率がいずれも県や国を上回っており、規則正しい生活をする意識が身についている。今後も保健体育や家庭の学習を通して、規則正しい生活リズムが健康に良いことを学んだり、家庭と連携して生活リズムについて考えたりさせていきたい。

○「あなたは自分がPCやタブレットなどのICT機器で文章を作成することができると思いますか」「あなたは自分がPCやタブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか」の肯定回答率がどちらも県・国を上回った。PCやタブレットなどのICT機器を利用した授業の中で、児童の学びが深まるように課題を設定していきたい。

●「自分には、良いところがあると思いますか」「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して、肯定的回答が県や国の平均を大きく下回った。日々の学校教育の中で、児童の行動を称賛する場面を設けたり、互いの良さに気が付くように学級活動で取り上げたりして、自己肯定感を高めていきたい。また、担任だけではなく学校全体で声掛けをしていきたい。

●「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定回答率は53.8%と県・国との肯定回答率を下回っている。学級担任だけではなく、学校全体で悩みを話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいきたい。

宇都宮市立中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探求の要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「国語の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が42.3%で、県や国の平均を下回っている。 ・「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が69.2%で、「理科の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童が84.6%である。どちらも県や国の平均を上回っている。
考え方を広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考え方の交流から自分の考え方を広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 また、学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」についての肯定的回答の割合は、84.6%と県や国を下回った、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の質問でも肯定的回答をした児童の割合も県や国の平均を下回った。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか」という質問に肯定的回答をした児童も県や国の平均を下回った。
基礎的な学習内容の定着のための取組	少人数指導や全教員による朝の学習支援、定期的なステップアップテストの実施、AIドリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は65.6%で県や国の平均を下回った。 ・算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は72.2%で県や国の平均を上回った。 ・理科の「知識・技能」の問題についての平均正答率は56.3%で国の平均を上回ったものの、県の平均を下回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・「1日あたりどれくらいの時間勉強しているか」という問い合わせに対して、1時間以上と回答した児童が38.4%で国や県の平均を1下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語では、目的に応じて関連付けたり、図表などを結び付けたりして、必要な情報を探査する問題などで、平均正答率が下回っている。 ・算数や理科の調査からも、自分の考えをもち、表現していく力を高めていくことが必要であると考えられる。	言語活動の充実	・条件に合うような情報の取捨選択ができるよう、多角的な意見から相応しいものを話し合ったり、理由を明確にして自分の考えを書くなど、言語活動を充実させる。 ・教師が児童の学びをコーディネートしていく。 ・自分の考えがうまく伝わるよう、ICT機器を効果的に活用していく。